2020年
（令和2年）
5月12日

むつび

石井十次の会　会報

２７２号

第２９回石井十次賞にユニセフ親善大使、黒柳徹子さん

公益財団法人　石井十次顕彰会
理事長　萱嶋　稔

公益財団法人石井十次顕彰会は、第２９回石井十次賞に女優でユニセフ親善大使の黒柳徹子さんを選定しました。

元熊本県知事で石井十次賞選考委員長の潮谷義子氏が黒柳徹子さんの受賞選出に至る経過と選考理由についてまとめられた文章を原文のまま紹介します。

「このたび、石井十次賞選考委員会は、第２９回の受賞者として全員一致で黒柳徹子氏を選出。

毎回、選考委員会は選出に際し、恣意的にならないこと、審査基準の要件を満たしていること、とくに、石井十次先生の精神が受け継がれ、今も尚、時代の求めるニーズに呼応していること等の観点から申請者を論議、決定。

黒柳氏は女優、司会者、エッセイストとして著名な方ですが、このたびも申請を出された方々の一人として、これらの観点から評価し、結論を出した。

受賞選出に至る経過

国際障害者年にあたる１９８１年、著書「窓ぎわのトットちゃん」の印税を活用し、障害のある人々の支援、聴覚障がい者の就労支援に取り組む。

今日でも障がい児者の社会参加、就労、就学の機会は乏しい状況にあるが、黒柳氏の活動は国際障害者年のテーマ「完全参加と平等」をめざすものでありノーマライゼーション理念の具体的活動の姿であった。

１９８４年から今日に至る長い歳月、ユニセフ親善大使としての活動はタンザニア、アフガニスタン、レバノン等々、延べ３９ヶ国を自ら訪問し、危険もかえりみず、飢え、疫病、保護者の喪失、悲惨な年少労働者等、身心に不安と孤独を持つこども達や立場の弱い人々に救援の活動を持続させてきた。

この活動の実態を、メディアをとおして国際社会に訴えることにより、多くの人々が関心と物心両面にわたる救援活動に参加するきっかけとなっていった。

この行動は、１９８９年、「子どもの権利条約」が国連で制定された時に強調された“こどもの権利”の代弁者としての立ち位置をしっかりと示されたものと理解するところである。

１９８５年、黒柳氏はヤヌシュ・コルチャック賞を受賞されているが、ポーランド人のコルチャック先生は「すべての子ども達は愛され、教育を受け、その命を

守られなければならない」とメッセージを残し、１９４２年8月6日、約２００人のユダヤ人の子ども達と共にトレブリンカ強制収容所のガス室で命を奪われた。

国際連合はコルチャック先生に畏敬の念をこめて１９７９年を「国際児童年」とすることを宣言し、１９８９年に定めた「子どもの権利条約」の父と讃えられている。

石井十次先生、コルチャック先生、黒柳徹子氏に共通しているのは、自らの命を失う危険さえ恐れずにすべての子ども達は愛され、その生命を慈しみ、守られ、人間教育を受けることの大事さを思想と行動に示している点にある。

以上を選考理由とします。」

と、このように潮谷義子選考委員長は選考理由を述べておられます。

黒柳徹子さんは取材に際して次のように語られました。

「とてもうれしい、光栄です。感激しました。『石井十次物語』を読みました。石井十次さんという方が親のない多くの子どもたちに、自立できるように教育をほどこし、農業を教えた。子どものために人生を捧げる、こんなえらい方がいらっしゃったことを今まで存じ上げず、申し訳なく思っております。愛ということを大切になさった方なのですね。えらい方の賞をいただきました。石井十次賞をわたくしの経歴に加えていただき多くの皆様に石井十次さんのことが知れわたれば良いですね。この度の受賞を心から感謝しております。ありがとうございました。」

黒柳徹子さんは東京都港区乃木坂のお生まれです。小学校時代を目黒区にあったトモエ学園で過ごされ、紅蘭女学校を経て東京音楽大学へ進学されました。卒業後はNHK放送劇団に入団され、NHK専属テレビ女優第１号として活躍されました。特にトモエ学園長の小林宗作氏による、ポリオを患った子どもたちとの分け隔てない教育に影響を受け、１９８１年に生まれた戦後の大ベストセラー「窓ぎわのトットちゃん」執筆につながりました。

この本の印税で同年、プロのろう者俳優を養成する社会福祉法人トット基金を設立されました。一方、「窓ぎわのトットちゃん」は当時のユニセフ事務局長のジェームス・グラント氏の心を動かし、この人ほど子どもへの愛があつい人はいないと、同８４年アジアで初めてユニセフの親善大使に選ばれました。以来、アジアやアフリカなど３９ヶ国を訪問し、子どもたちが置かれた窮状をテレビなど各種メディアを通じて伝えてこられました。これらの報道により黒柳さんのもとには累計で６１億円を超える募金（２０２０年２月現在）が集まり、子どもたちにとって、いま最も必要なもののために使われています。

公益財団法人石井十次顕彰会は、黒柳徹子さんのこのような一連の活動に敬意を表し、石井十次賞贈呈を決定いたしました。

もうひとつの美術館その５～ 十次の教育の神髄を考える～

「密室教育」　十次は一対一で対座して褒めたり戒めたりした・・・岡山孤児院物語から
「ライオン教育」　〝獅子は子どもを千尋の谷に落とす〟の絵・・・藤島武二作

石井十次の教育の神髄を理解するのにふさわしい写真。資料館にも掲げられている。

十次が卒業間近の少年と対座している。背景には、両側に日本地図と世界地図。
そして、中央には〝獅子は子どもを千尋の谷に突き落とす〟の場面を描いた藤島武二の絵画。
密室教育・ライオン教育とも説明される。

密室教育は、岡山孤児院１２則の一つである。写真キャプションのとおりではあるが、ここでは、自立の時を迎えた少年へのエールの場面としての雰囲気を強く感じる。
少年も腰骨をしっかりと立て十次の言葉を聞き漏らすまいと凜と正対した姿。
では、十次からのエールの中味とはなんぞや。
児嶋草次郎理事長は「石井十次の教育に学ぶ」著で十次はおそらく次のように語っていると推測している。

君は近々自立するけれども、自立するとはこういうことなんだよ。崖から突き落とされることなんだ。困ったときには助けてあげるけれども、這い上がるのは君自身なんだ。這い上がる力は、岡山孤児院の教育で十分に身につけたので心配するな。
しかし、しっかり自覚しろよ。それだけでなく、日本、いや世界を視野に入れて心を広くもって頑張って生きていけ」

ライオン教育の絵画では、子どもライオンが下から虚ろな目で不安げに見あげておりおぼつかなさを感じる。エールとはそぐわない。
ここは、理事長推測の「這い上がる力は、岡山孤児院の教育で十分に身につけたので心配するな。しっかりと羽ばたけ」がふさわしい。
岡山孤児院１２則にそって慈しみ可愛がりいよいよ出立の時を迎えたこの少年こそ十次の教育の神髄のモデル。その成果が結実しているモデル。
そう考えてみたい。

機会をつくってぜひご覧ください。　　〈編集委員　竹之下　悟〉

《 お　し　ら　せ 》

★新会員のご紹介（敬称略）
【西 都 市】壹岐　政顕

★ご寄付をいただきました（敬称略）
（一般）
【高 鍋 町】浦　叶
【日 向 市】西村　豪武　小林　理教
【木 城 町】山下　トシ子
【東 京 都】柳田　せい子　三木　健一
【宮 崎 市】原野　茂盛　清水　昭男
皆内　康広　岡元　ます子
酒匂　千昭
【さいたま市】新福　教一
【西米良村】黒木　清子
【延 岡 市】佐藤　玲子
【西 都 市】黒木　博
【栃 木 県】杉尾　和子

(奨学金基金へ)
【宮 崎 市】西野　宏　古賀　義明
【長 崎 市】増田　康行
【高 鍋 町】あおい会館

★　3/21～4/20の資料館来館者
団体・グループ　　０人
個人　　３２人　　合計　３２人

ここまでの掲載者は編集委員会開催の都合により4月20日までのものとしています。

★当面の行事(あくまでも予定です)
・代表役員会
と　き　5月22日（金）

・西諸支部発足設立総会
と　き　5月16日（土）
ところ　高原町商工会館２階

・宮崎支部総会予定
と　き　6月6日（土）10時
ところ　石井記念福祉文化センター
（こひつじ保育園２階）

★6月号の通信発送作業
6月11日（木）9時から印刷・製本
12日（金）9時から製本・発送

●今年も鯉のぼり揚がる

４月１８日（土）強い西風の中、恒例ののゆり幼児園（4月から名称変更、友愛園近くに新築移転）ひかり・やまばと保育園の３園合同・地元有志・友愛社関係の職員・十次の会員等によって１５０匹が友愛園前の水田上に掲揚され、５月９日まで掲揚の予定です。

【 友愛園をバックに泳ぐ鯉のぼり 】

●友愛園の庭に一際目立つ彫刻のモニュメントが設置されています。自分の生き様を「感謝」・「努力」することにより変えていくことが出来ると言う言葉でしょうか。“人間革命“をめざす指標となる様です。

【「運命を変える」力強いモニュメント 】

※　編集後記

「むつび」巻頭は石井十次顕彰会理事長萱島稔氏の玉稿です。ありがとうございます。

今、緑いっぱいの友愛園の庭は、吉野桜も終わり、いよいよ草花の季節ですね。植栽された花の小道にはやがて賑やかに美しく咲いてくれるでしょう。

・・・文責　生駒

この会報は、宮崎県を中心に全国 1700 余の個人・団体に毎月送付しています。
社会福祉法人　石井記念友愛社　　〒 884-0102　宮崎県児湯郡木城町大字椎木 644-1
後援会「石井十次の会」　　TEL/FAX　０９８３－３２－４６１２
メール　yuuaisya-jyuujinokai@kijo.jp